

東海道五十三次を往く

第35回

海上七里を渡り、伊勢国最初の宿場、桑名宿をミスモ編集部が巡りました。



桑名宿

七里の渡しで栄えた湊町は、伊勢国の玄関口

宮宿から航路「七里の渡し」でたどり着く地が桑名宿である。東海道はここからいよいよ三重県に入る。桑名宿は船着場のあたりが中心であり、大塚本陣跡のレストラン「ザフナツヤ」、脇本陣駿河屋跡の料理旅館山月（現在は閉業）が並ぶ。七里の渡し跡には桑名城にあった槽のひとつ「蟠龍槽（ばんりゅうやぐら）」が再現されている。広重が描いた「桑名「七里渡口」」にもこの槽が見える。本多忠勝の居城だった桑名城の跡地「九華公園」も近いので立ち寄りたい。この桑名城の防衛を目的に東海道はクランク状に曲がる柵形になっているので、右に左に曲がりながら南へ進む。



七里の渡し跡 船着場跡には常夜灯や鳥居が立っているが、この鳥居は伊勢国の東の入口でここより伊勢路がはじまることから「伊勢国一の鳥居」と呼ばれている。

大塚本陣跡のレストラン「ザフナツヤ」と脇本陣駿河屋跡の料理旅館山月



桑名城跡（九華公園） 徳川四天王のひとり、本多忠勝の居城として知られている桑名城跡は、現在では建造物は残っておらず石垣と堀が残っており、九華公園として市民の憩いの場となっている。

街道の食

はまぐり料理

桑名名物といえば「その手は桑名の焼き蛤」という洒落言葉で知られている「はまぐり」が有名である。桑名にははまぐり料理が食べられる店が多いが、高級料亭から手頃な値段で食べられる店まで予算に応じて選べるのがうれしい。「歌行燈」は泉鏡花の小説「歌行燈」に登場するうどん屋である。

風流うどん そば料理 歌行燈 本店
三重県桑名市江戸町 10
☎ 0594-22-1118



街道の土産

安永餅

1637(寛永11)年に創業の老舗。国産のもち米と小豆を用い、当時の製法で作られている。添加物を一切加えていないので日持ちはしないが、その分、素材の良さや作りたてのおいしさを味わえる。

永餅屋老舗
三重県桑名市有楽町 35
☎ 0594-22-0327



桑名宗社（春日神社）

地元の人たちが「春日さん」と呼ばれ、古くから桑名の総鎮守として親しまれており、青銅の鳥居は桑名が鑄物業の町として栄えた象徴となっている。8月に行われる石取御神事（石取祭）はユネスコ無形文化遺産に登録されている。



「写真でたどる、現代の東海道五十三次を往く」上巻（日本橋～袋井宿）好評発売中！



人気連載「東海道五十三次を往く」が待望の書籍化！写真をより大きく使い、迫力や臨場感を増して、現代の東海道を紹介している。定価は1,650円(税込)。お求めは全国の書店、ネット通販などから。1面もチェック！

お求めはこちらからも！

